歩道橋

木俣収

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
歩道橋

【Ｎコード】
Ｎ２４１２Ｄ

【作者名】
木俣収

【あらすじ】
帰り道、彼は歩道橋の上でたたずんでいる女の人を見かける。ある日・・・

その男は、車で通勤していた。
帰り道、日没間近の太陽が全てをオレンジ色に変えようとするなかで、みな家路を急ぎ、車の長い列ができあがっていた。
そんなときに、いつも気になることがあった。
それは、ある歩道橋の上で、若い女性が遠くをみるような目をしてたたずんでいる姿だった。
「彼女は何をしているんだろう。」
彼女は、決まった曜日に必ずそこにいた。
そこで、いつも同じようにたたずんでいた。
「誰かを待っているんだろうか？」
そこを通るたびに、かれは疑問をふくらませていった。
そんな疑問と好奇心が抑えきれないほど大きくなったある日、かれは車を止めて歩道橋の階段を駆け上がった。
彼女は彼に気付くふうでもなく、相変わらず遠くを見ている。
「こんにちは。」
彼女は驚いたように、彼を見る。
そして、わずかな微笑を見せて軽く頭をさげる。
「あの、ここで誰かを待っているんですか？」
その問いに対して彼女は首を振る。
少しのあいだ沈黙があった。
彼女は、バックの中からノートを取り出し、何事か書き始める。
そこには、自分は声が出ないのでしゃべることができないと書かれていた。
「あ、そうだったんですね・・・。あ、えーと。ごめんなさい。」
彼女は再び首を振る。
それから、二人は話をした。
彼の話に彼女は身振りとノートで答える。

「そうか。すぐそこの病院に入院しているんだね。」
彼女は、気分転換のためにここでぼんやりとするのが好きなようだった。
さらに聞くと、もうすぐのどの手術を受けるとのこと。
「それを受ければ、声が出るようになるの？」
彼女はうなずく。
「じゃあ・・・。」
「じゃあ、それがうまくいったら、僕にお祝いをさせてもらえませんか？」
彼女は一瞬、戸惑った表情をみせた。
しばらく間を置いた後、彼女はゆっくりとうなずいた。
二人は手術の日から一ヶ月後の日に、ここで待ち合わせることを約束した。
「手術が絶対にうまくいくことを願っているから。がんばってね。」
そう言って、その場を去った。
そして、その日。
かれは約束していた時間よりも早くに来て、彼女を待っていた。
しかし、彼女はその時間を過ぎても現れない。
「成功しなかったんだろうか・・・。」
そうつぶやいたそのとき、彼女がやってきた。
「どうだった？」
彼女はにこやかな笑顔を浮かべる。
そして、おもむろに口を開く。
「・・・成功しました。」
「そうか、良かったね。」
しかし、その言葉とは裏腹に、彼は素直に喜ぶことができなかった。
なぜなら、彼女の声は、野太い男のものだったのである。
つまり彼女、いや彼は、おかまだった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2412d/

歩道橋

2010年12月2日07時48分発行